

## 努力事項解説 その2 (小学校音楽)

「児童が、音楽を形づくっている要素を聴き取り、  
音楽のよさや美しさと結び付けて感じ取ることができるような  
授業の展開を構想する。」の実践のポイントを考えていきます。  
今回は4年生の「アンサンブルの楽しさ」のポイントです。

### ○ 第4学年 題材「アンサンブルの楽しさ」の場合

この題材では、中学年の学習内容のA表現「(2) 器楽の活動を通して、次の事項を指導する。」の、「ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」「エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。」及びB鑑賞「(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。」の、「イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。」を、共通事項の「音色」「問いと答え」「音の重なり」と関連させて指導するようになります。

なお、この題材は、「アラホーンパイプ」という曲を鑑賞と表現（器楽合奏）の両面から取り扱い、「音色の違い」「問いと答え」「音の重なり」について学習するように構成されています。器楽合奏をするにはある程度の時間を必要としますが、ぜひ、楽しみながら挑戦してほしい題材です。

#### (1) 『アラホーンパイプ（鑑賞）』のポイント

ここでは、

- ① 「トランペット」と「ホルン」の音色の違いを聴き取り、雰囲気の違いを感じ取る。
  - ② 「トランペット」と「ホルン」が同じ旋律を「反復」していることを聴き取り、よさを感じ取る。
  - ③ 合奏の音の重なりを聴き取り、よさや面白さを感じ取る。
- この3つをねらいとしています。このねらいを達成するには、次のような方法が考えられます。

#### 『ポイント その1』 ～ 部分的に聴かせてみましょう ～

「アラホーンパイプ」という曲には、全く同じ旋律をトランペットとホルンで続けて演奏している箇所が何カ所もあるので、その部分に焦点を絞って聴かせて、音色の違いを聴き取らせ、雰囲気の違いを感じ取らせましょう。全曲通して聴かせた後、「トランペットとホルンが同じ旋律を続けて演奏している部分」だけを取り出して聴かせてみましょう。トランペットとホルンの音色の違いがはっきり分かります。トランペットが明るく輝かしい音色で旋律を演奏した直後に、同じ旋律をホルンが、曇ったような少しとぼけたような音色で演奏します。児童は、音色や雰囲気の違いをすぐに感じ取ることができると思います。

#### 『ポイント その2』 ～ 鑑賞と表現（器楽合奏）を平行して進めてみましょう ～

この題材では、「アラホーンパイプ」という曲を鑑賞し、同じ曲を器楽合奏するという構成になっていますが、鑑賞と表現（器楽合奏）とを分けてそれぞれ取り組むのではなく、鑑賞と表現（器楽合奏）を同時に進める方法もあります。「音色の違い」に焦点を絞って鑑賞し、音色の違いを感じ取ったら、それを楽器の選び方や演奏の仕方に生かして器楽合奏をするとか、音色の異なる楽器を選択し器楽合奏の練習をしている途中に、「音色の違い」に焦点を絞って鑑賞するという方法です。「問いと答え」や「音の重なり」についても同様です。「呼びかけているように聴こえるのはどこだろう?」「それに応えているように聴こえるのはどこだろう?」「音が重なっているところと、そうでないところはどこだろう?」などと、鑑賞したり合奏したりしながら聴き取り、感じ取って、ねらいに迫ることができるようにしましょう。

## (2) 『アラホーンパイプ（器楽合奏）』のポイント

ここでは、

- ① けん盤楽器やソプラノリコーダー等、選んだ楽器の本来の音色を出すことができるよう気を付けて演奏すること。（息の入れ方、タンギング、指遣い等）
- ② 低音や他のパートを聴いて、音を合わせて演奏すること。
- ③ 「音色の違い」「問いと答え」「音の重なり」を感じ取って、それらを生かして演奏すること。

これらのねらいを達成するためには、次のような方法が考えられます。

### 『ポイント その1』 ～ 曲の最初から練習する必要はありません ～

必ず曲の最初から練習しなければならないということはありません。

この曲の場合だと、「リコーダーなどで演奏するよう指定されているパート」の最初から5小節目から取り組ませ、「けん盤ハーモニカで演奏するよう指定されているパート」の7小節目からの反復による音色の違いを感じ取らせましょう。ここだけを取り出して繰り返し練習させることで、「問いと答え」の指導も同時に行うことができます。また、演奏するパートを交代することで、音色の違いをさらに感じ取りやすくすることができます。

### 『ポイント その2』～耳を澄まして自分の出した音を聴ける環境をつくりましょう～

この曲に限ったことではありませんが、けん盤ハーモニカやソプラノリコーダー等楽器の練習をさせるときには、児童の実態や校舎の状況等を考慮し、できるだけパートごとに別な部屋で練習するようにしましょう。同じ部屋の中で他のパートの音が干渉し合っている状態では、自分で自分の出している音をしっかり聴くことができないため、正しい、美しい音色に意識を向けさせることは難しいです。児童に、自分の出している音が美しいのか、リコーダーやけん盤ハーモニカで出すことができる正しい音なのか、意識して聴きながら演奏する習慣を身に付けさせましょう。



今回は、5年生の実践のポイントを考えていきます。8月16日（金）頃アップする予定です。